

多言語・多文化に開かれた言語教育の研究

◆キーワード

言語教育 言語への気づき カリキュラム開発
CEFR 複言語・複文化主義 行動中心主義

◆産業界の相談に対応できる分野

グローバル人材育成 英語 早期言語教育

人文学部人文コミュニケーション学科 教授

福田 浩子

TEL 029-228-8451

FAX 029-228-8451

e-mail hirokof @ mx.ibaraki.ac.jp

一言
アピール

グローバル人材育成のために必要とされる言語教育について研究しています。

研究概要

普段誰もが使っているが、あまり意識されていないことが多い言語。言語は、人と人とのコミュニケーションをはじめ、文化の伝承や、個人のアイデンティティにも関わる非常に重要なものです。

英語を学ぶにしても、他の外国語を学ぶにしても、多くの人たちの母語である日本語の力を援用することができます。そのためには、「言語への気づき」(Language Awareness)が重要な役割を果たします。また、すでに学んだ言語からの転移や、学習過程で身につけた学習方略を利用することもできます。

第二言語習得研究、バイリンガリズム研究などから得られた知見や、ヨーロッパで行われてきた言語意識教育を応用し、言語への気づきを高めることによって、英語を含め、多言語・多文化に開かれた言語の学習に役立てることが研究の1つの柱です。

もうひとつの柱は、40年にわたるヨーロッパ評議会(Council of Europe)の言語教育・学習に関する取り組みと英語教育の研究から生まれたヨーロッパ共通参照枠(CEFR)を応用したカリキュラム開発の研究です。CEFRは、複言語・複文化主義、行動中心主義、生涯学習としての言語学習を前提としていることから、グローバル化、国際化が進んだ社会において、個人がどのように言語と付き合い、学び、また異文化理解能力をどのように高めていくかといった観点から、新たな言語教育・学習の枠組みを提示しています。このCEFRの考え方は、言語教

育にパラダイム・シフトをもたらしたと言っても過言ではありません。単一言語主義に基づく言語教育から複言語・複文化主義に基づく言語教育へ、実際には存在しない「理想的母語話者」を目標とする外国語教育から現実的に行動できる機能的複言語話者の育成へ、さらに複数言語を初等教育段階から学んでいく早期外国語(言語)教育へ、内容と言語を合わせて学んでいくCLIL(内容言語統合型学習)の導入へ、現在ではヨーロッパに限らず、CEFRは世界標準の1つとして、ますます緊密な関係になっていく世界において存在感を増し、我が国の英語教育政策や日本語教育にも取り入れられるようになってきています。

本学で教養英語教育「総合英語」プログラムを開発、実施するにあたって、2001年からこの共通参照枠に着目し、研究してきたことを土台として、その後、イギリス、スイスなどで外国語教育の調査を積み重ね、理論面だけでなく、実際の授業や教材開発、教員養成なども見てまいりました。

劇的に変わりゆく社会に対応するには、コミュニケーションの基礎となる言語教育が重要です。これまでの研究や、ビジネス・パーソンとして、また教育者としての実践経験から得たものを通じて、現場のお手伝いができたら幸いです。

何に
使える?

グローバル人材育成、英語、早期言語教育のカリキュラム開発、社員・教員研修に利用できます。